

高度医療の中核(Excellence)と医療人材・知の地域展開(Extension)を担う広域連携ハブ創成事業 ～「集約と分散」でつなく、機能分化・相互補完モデル～

北海道の現状とこれまでの本院の取組等

- 現状
- 人口減少と高齢化の同時進行
 - 医師の地域偏在（札幌圏集中）
 - 広大な地理条件と冬季の移動制約

⇒ 「地域完結」型医療提供体制の持続困難化

- 二次医療圏ごとに急性期機能を分散して維持する従来モデルでは、高度急性期の質・安全性・持続性を確保することが困難
- 外科医減少、設備更新負担、人材確保の限界が顕在化

- 取組
- 地域医療支援（非常勤派遣・遠隔支援体制の整備）
 - ICT連携の推進（17医療機関と診療情報共有）
 - 経営改善（過去10年、年間10億円規模の増収）
 - 重症・高度急性期機能の拡充（ICU/HCU増床、救急センター指定）

これからの北海道における医療の在り方

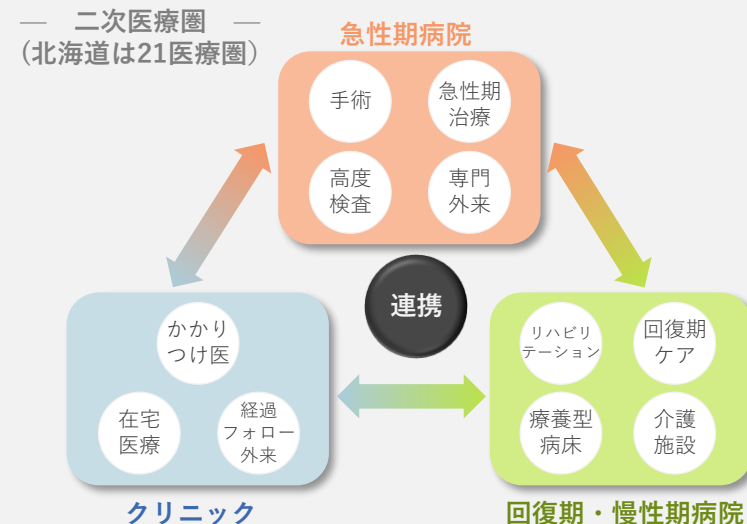
● 「集約と分散」型へ構造転換

- 高度急性期・高度医療は“集約”して中核で担保
 - 例：救急-手術-ICU、移植、重症、ゲノム・がん・希少疾患など
 - 地域の通常診療は“分散”して各地域で継続
 - 遠隔支援・画像共有・読影支援などで大学病院が専門性を提供
- ⇒ 必要な患者を確実に高次医療につなぎ、治療後は地域に戻す“循環型”
- 北海道全体で医療資源（人材・設備）を最適に再配置する

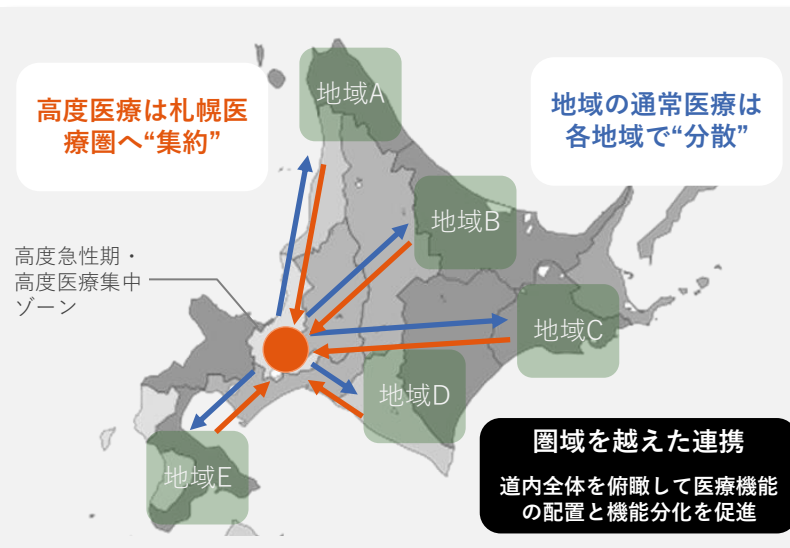
● 北海道全体の医療を協議する場の設置へ

- これまでの第二次医療圏ごとの個別最適では医療機能の維持が困難であることを見据え、圏域を越えた北海道全体の医療について協議する場の設置（プラットフォーム）を目指した意見交換を開始

▼ 「地域完結」型医療提供体制のイメージ図



▼ 「集約と分散」のイメージ図



高度医療の中核(Excellence)と医療人材・知の地域展開(Extension)を担う広域連携ハブ創成事業
 ~「集約と分散」でつなく、機能分化・相互補完モデル~

事業概要

「集約と分散」を前提に、道内3大学病院・行政・地域医療機関等と連携し、**高度医療を担う中核機能を強化**し、医師派遣・遠隔支援・データ連携を一体で実装し、**圏域を越えた機能分化と相互補完を支える広域ハブを構築**する。

診療・教育・研究の循環により価値を創出する国立大学病院モデルを確立し
 “集中と分散”型の医療提供体制へ

